

幹事会報告（概要）

1. 意見募集の実施について

(1) 実施期間及び方法

①実施期間

平成18年2月2日（木）～平成18年2月15日（水）

②実施方法

- ・報道発表による広報。
- ・ホームページへの掲載（募集期間におけるアクセス件数8,596件）。
- ・国土交通省、（財）関西文化学術研究都市推進機構、けいはんなプラザの窓口でサード・ステージ・プランの配布。
- ・学研都市内の8市町及び学研都市内外の265の立地機関・研究機関等へサード・ステージ・プランの送付。
- ・経済団体や大学、研究機関等1,728箇所にメール等にて連絡。

(2) 寄せられた意見数

【意見提出者数】 23（名・機関）〔行政：3機関、市民等：20名〕

(3) 主な意見

①学術研究機関の誘致

- ・今後も大学や研究機関の建設は必要。
- ・高齢・情報・サービス・循環型社会に対応した先端研究の大学・学部の誘致を図るべき。

②生産施設の立地

- ・文化学術研究地区においても研究機能を持つ生産施設を認めるべき。
- ・産業施設やものづくりの拠点となる施設を認めるなど、規制緩和が必要。

③学研都市における文化の重視

- ・学研都市の文化全般について重視すべき。市民から生まれる地域文化、生活文化にも力をいれるべき。
- ・平城遷都1300年記念事業の実施基本計画が決定したので、本文にその内容を充実してもらいたい。

④都市の利便性・サービスの向上

- ・公共交通機関の整備が最重要課題（近鉄けいはんな線の延伸、鉄道駅と接続するバス路線の整備等）。
- ・生活関連施設を充実させることにより、住民の利便性や住み心地を改善すべき。

⑤新たな都市運営体制

- ・サード・ステージにおいては、都市の運営、産学官連携への市民の参画が必要であり、プランでもその内容を充実すべき。
- ・都市運営において3府県に跨るデメリットの解消を進めるべき。

2. 第5回幹事会における主な意見について

(1) 「今後10年の重要性」の記述について

- ・プランの最後の「今後に向けて」の中で記述しているが、むしろプランの最初の「はじめに」の中で記述し、プラン推進の重要性を強調すること。

(2) 高度な都市運営組織の扱いについて

- ・第5章で提案している体制について、各体制の違いが明確化できるように名称等を修正すること。

体制については

- ・関西全体で学研都市を支え・推進する体制
- ・学研都市を一体化した新たな運営組織
- ・学研都市全体の産学官連携組織

(3) 「未来を拓く知の創造都市」について

- ・目指すべき都市像については、「未来を拓く知の創造都市」とする。
- ・学研都市独自の概念として「知の創造都市」を定義。

未来を拓く知の創造都市

- ・市民や研究者の知による生産や文化の創出、新しい価値の創造
- ・「持続可能社会」での市民や研究者による住まい方、生き方の創造・発信

(4) サード・ステージ・プランの題名については、下記の通りとする。

正式名称：「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」

副題： ～学研都市の新たな展開を目指して～

(理由)

- ①正式名称については、本プランが転換期として新たな段階（サード・ステージ）を迎えつつあることを強調、「セカンド・ステージ・プラン」との対比が明確、名称が浸透しつつあること等による。
- ②副題については、展開期で新たな取り組みを行う必要があることを補足的に表示。